

事後評価(案)

一般国道3号
南九州西回り自動車道
(鹿児島道路)

事後評価の説明概要

- 1．事業概要
- 2．事業の効果(直接効果)
- 3．事業の効果(間接効果)
- 4．事業で配慮した事項
- 5．評価結果及び対応方針(案)

1. 事業概要

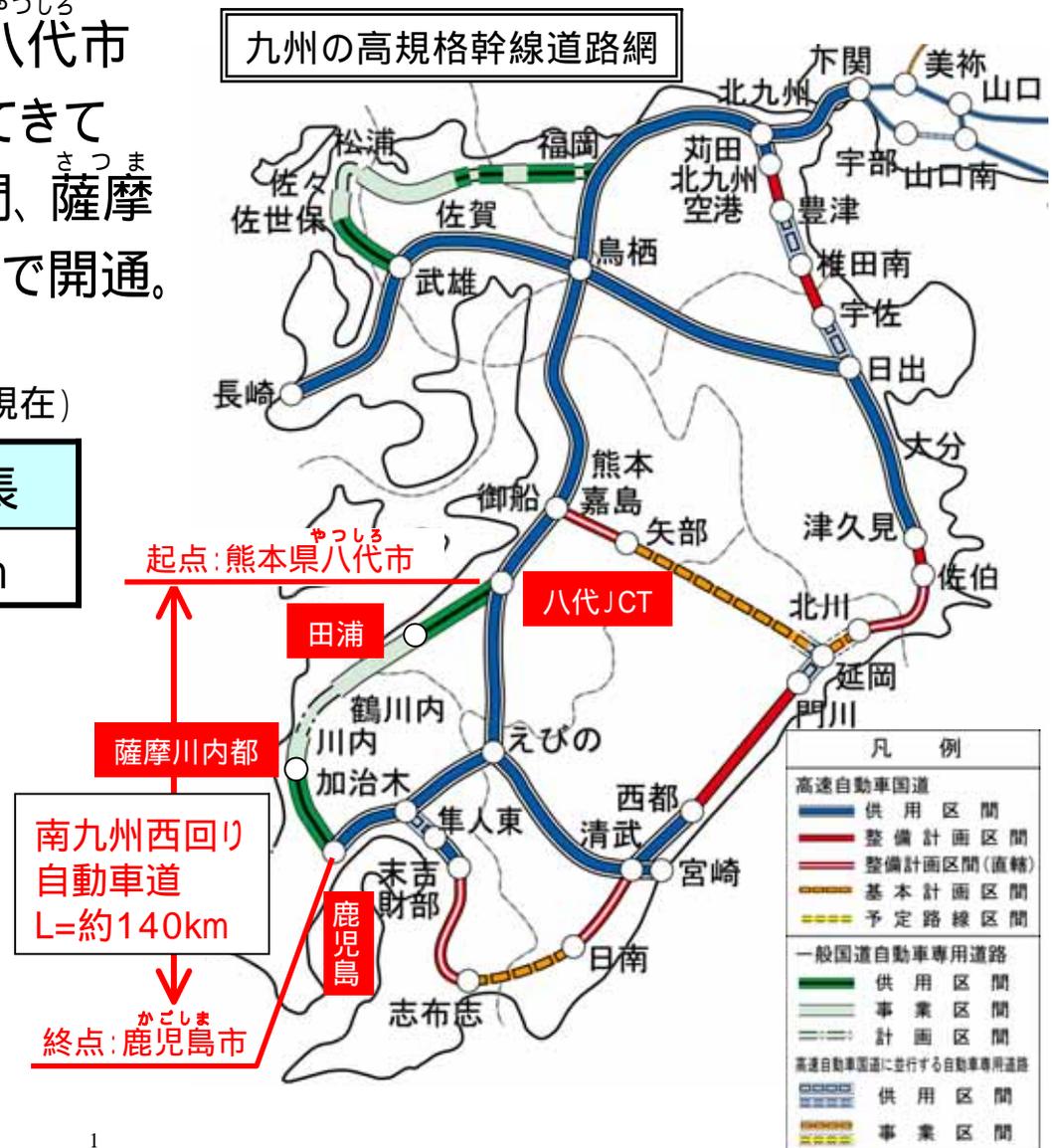
南九州西回り自動車道の計画概要

■ 現在、南九州西回り自動車道は、八代市^{やつしろ}及び鹿児島市の両方から整備を進めてきており、現在までに八代JCT^{たのうら}～田浦IC^{さつま}間、薩摩川内都IC^{せんだいみやこ}～鹿児島IC間が暫定2車線で開通。

全体計画の4割が開通 (平成20年1月現在)

全体計画	事業中延長	開通延長
約140km	約63km	約57km

■ 本道路は、九州南西部の地域経済の活性化、高速定時性の確保に大きく貢献することが期待されている。



鹿児島道路の事業概要

■ 鹿児島県の道路状況

鹿児島県の高規格幹線道路・主要国道・有料道路網図



- 県都・鹿児島市の人口は約60万人であり、県の人口の約3割が集中している。
- 鹿児島市の周辺約30km圏には、人口約10万人の都市が分布しており、鹿児島市とそれらの都市を結ぶように高規格幹線道路(鹿児島道路を含む)が計画されている。



慢性的な渋滞(国道3号)

上り線側・事業中

(奥・鹿児島IC)

(手前・鹿児島市街)

◇鹿児島ICと鹿児島市街地を結ぶ国道において慢性的な渋滞が発生。
 ◇国交省にて事業中の「地域高規格道路 鹿児島東西道路」の一部が開通すれば渋滞解消に寄与するものと期待。

鹿児島道路の事業概要



■ 事業方式

一般道路事業と有料道路事業の合併施行
 (当社は、舗装(表層以上)、本線標識、道路情報板
 および料金収受機械に関する工事などを施行)

■ 事業の経緯

事業化(国土交通省) 昭和63年度

有料道路事業許可 平成9年3月

工事着手

【伊集院IC～鹿児島西IC】 平成9年6月

【市来IC～伊集院IC】 平成13年8月

開 通 【伊集院IC～鹿児島西IC】

平成10年3月(暫定2車線)

【市来IC～伊集院IC】

平成14年4月(暫定2車線)

せんたい * 川内道路 (鹿児島道路の延伸区間) *

・ 鹿児島県薩摩川内市といちき串木野市を結ぶ延長13.8kmの自動車専用道路で、一般道路事業として整備。

平成17年3月 串木野IC～市来IC開通(暫定2車線)

平成19年3月 薩摩川内都IC～串木野IC開通(暫定2車線)

鹿児島道路の事業概要

■ 事業期間

14年0ヶ月（計画時と変更無し）

■ 事業費

計画時	1,113億円	実績	1,225億円 (+112億円)
			(55億円 / km)

〔うち、有料道路事業費〕	計画時	52億円	実績	47億円 (5億円)
--------------	-----	------	----	-------------

2. 事業の効果 (直接効果)

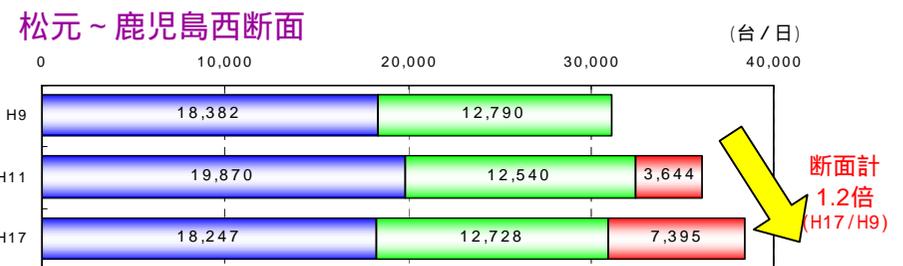
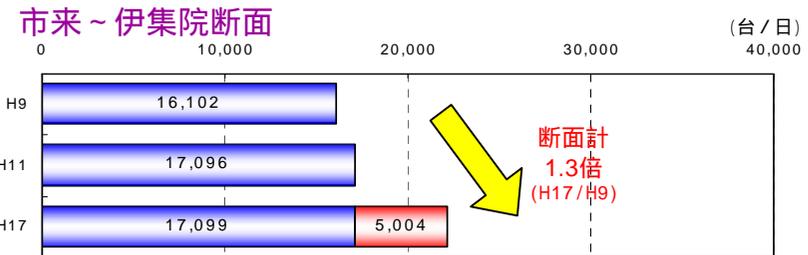
周辺道路の交通動向の変化

並行する国道や県道の交通量が減少しており、交通量の分散が図られている。

交通量の調査断面位置図



資料: 道路交通センサス

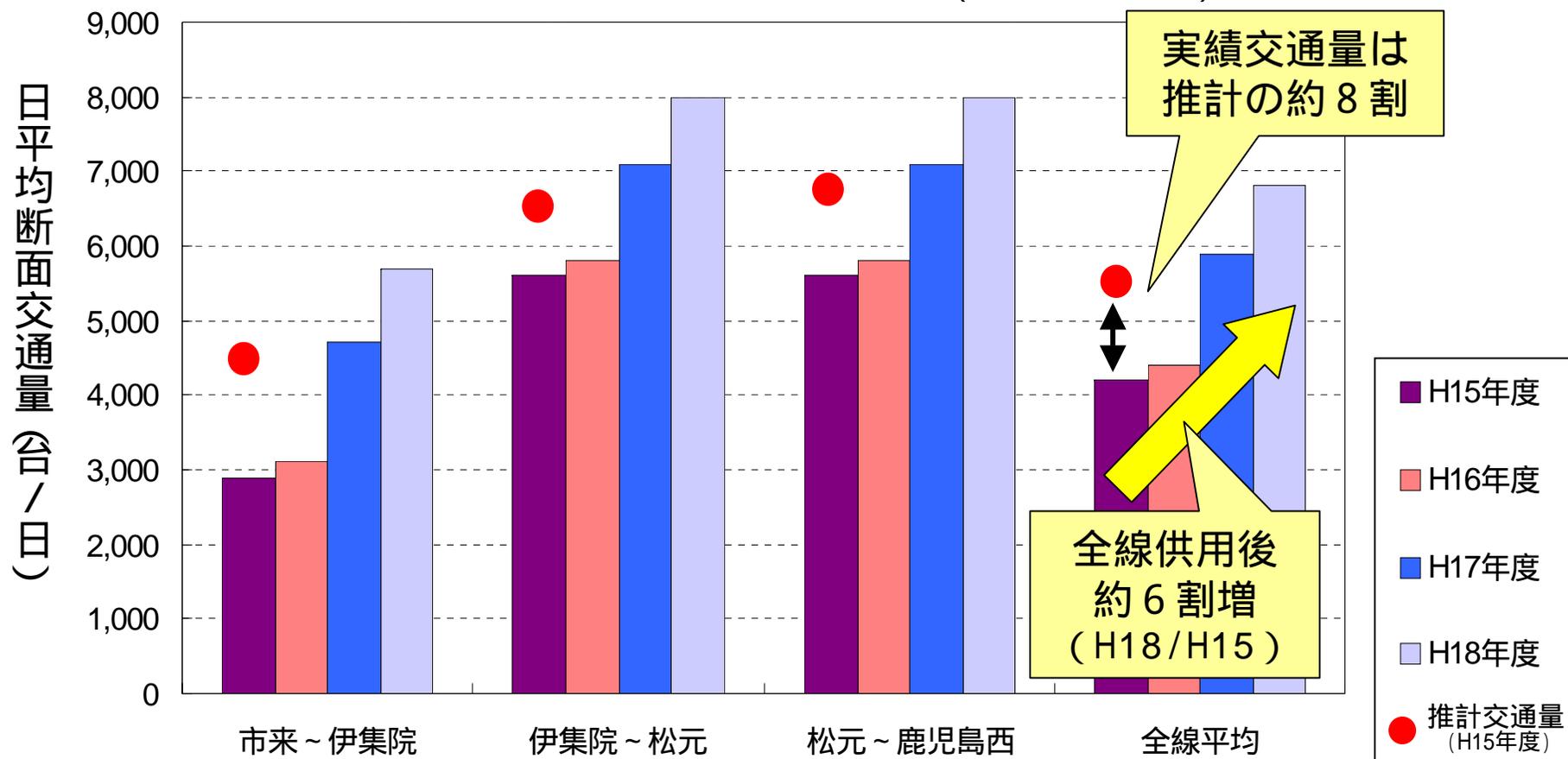


一般国道3号
 主要地方道(県道24号)
 鹿児島道路

交通量の推移

全線開通翌年度(平成15年度)の日平均交通量は約4,200台/日で、以降、大幅に増加している。

区間及び日平均交通量(年度平均)



資料:NEXCO西日本データ

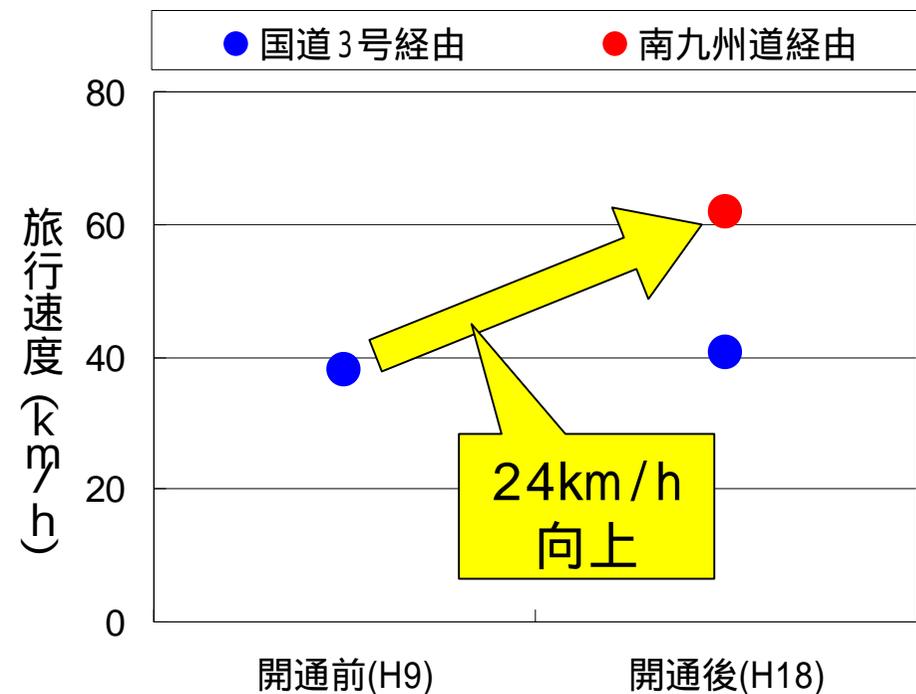
所要時間短縮(旅行速度向上)

鹿児島市から薩摩川内市までの所要時間は、約32分の時間短縮(78分→46分)。

旅行速度は、24km/h向上(38km/h→62km/h)。また、並行する一般国道3号の旅行速度も2km/h向上。



一般国道3号と南九州道の旅行速度の変化

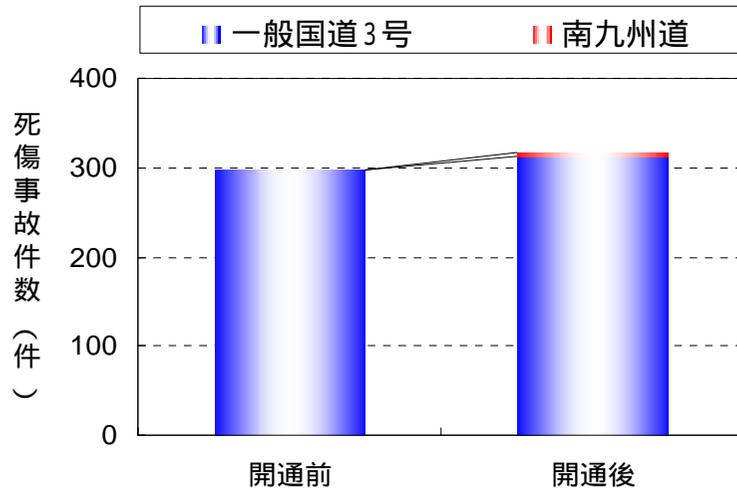


資料: 道路時刻表、道路交通センサス

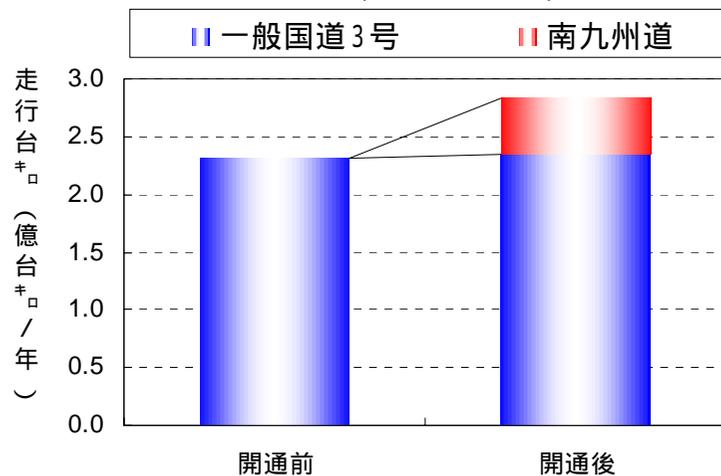
交通事故減少

並行する一般国道3号と南九州道を合わせた死傷事故件数は微増している一方、死傷事故率は、約1割減少。

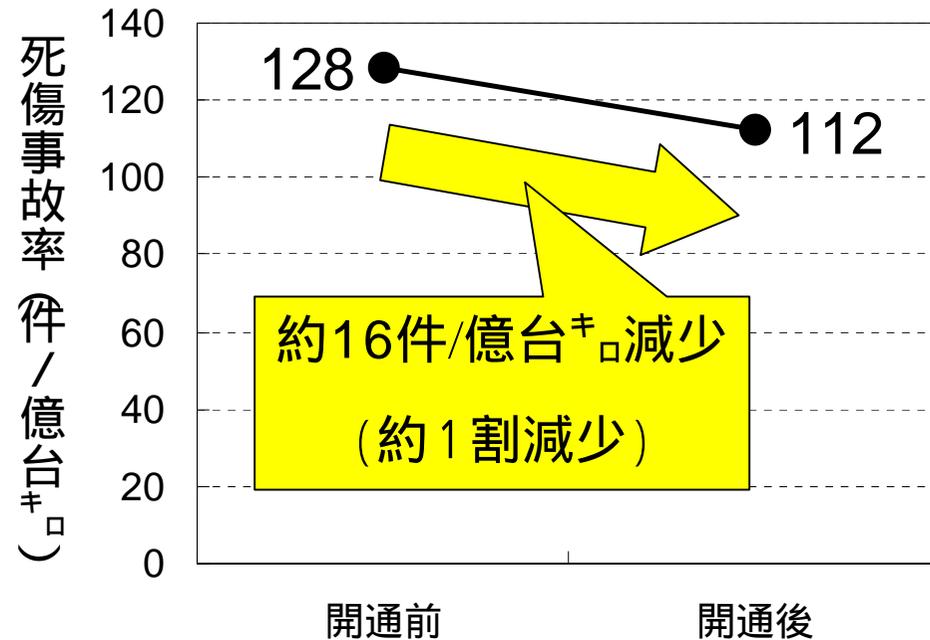
A. 死傷事故件数



B. 交通量 (走行台キロ)



並行する一般国道3号と南九州道を合わせた死傷事故率 (A / B) [死傷事故件数 / 交通量]



走行台キロとは：自動車の走行距離の総和。
(各区分延長とその区間の交通量を乗じて各区分を足し合わせた総数)

事故件数には区分交通量だけでなく自動車の走行距離による要因も含まれるため、交通量は走行台キロによるものとしている。

費用便益分析結果

費用便益比(B/C)は、1.8。

主に、高速利用による時間短縮便益が大きい。

便 益 (現在価値:H19)	走行時間短縮便益	3,062億円
	走行経費減少便益	282億円
	交通事故減少便益	106億円
	計	3,451億円
費 用 (現在価値:H19)	事業費	1,755億円
	維持管理費	158億円
	計	1,913億円



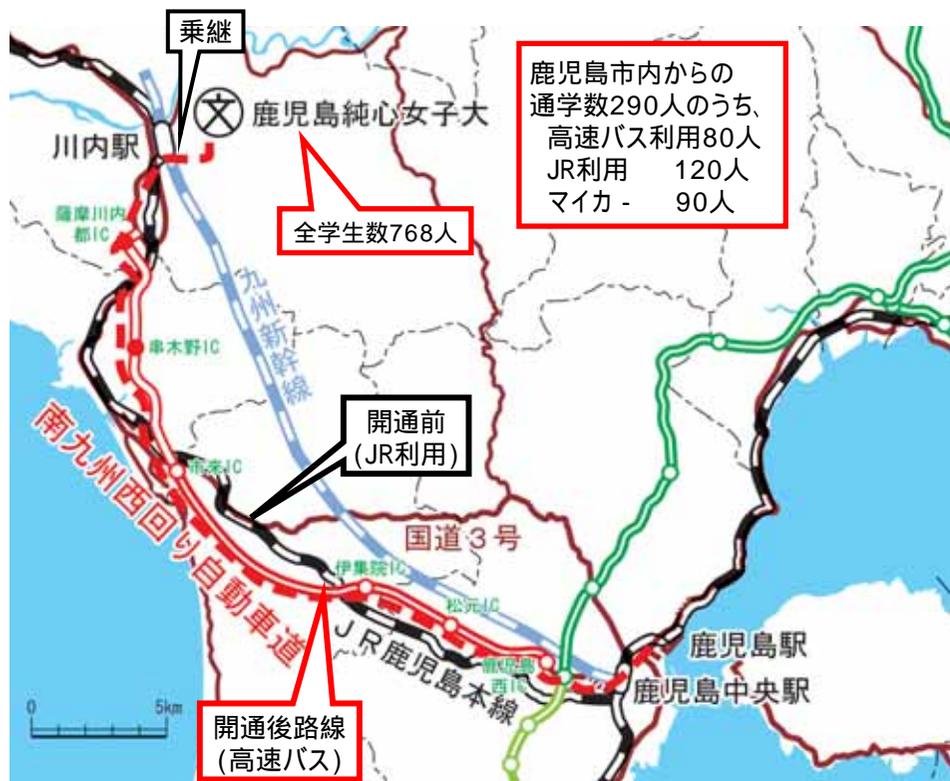
費用便益比 B/C=1.8

「費用便益分析マニュアル(H15.8 国土交通省道路局都市・地域整備局)」に基づき算定

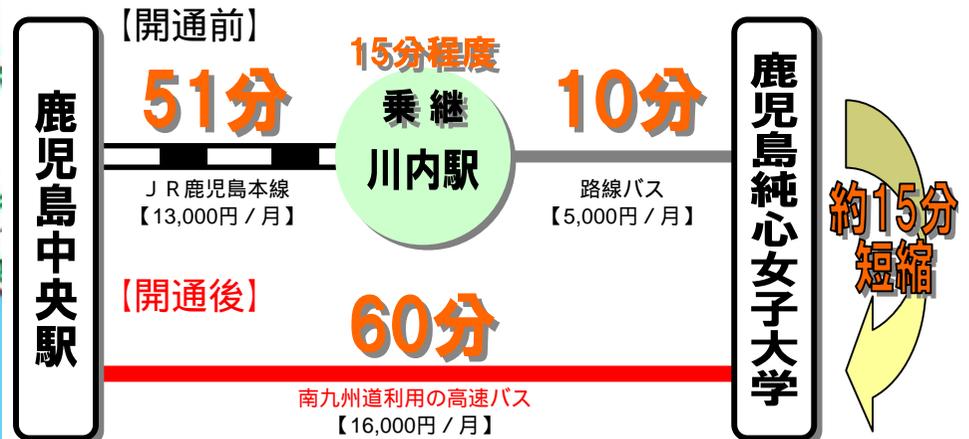
3.事業の効果(間接効果)

バス路線の新設

鹿児島市と薩摩川内市にある大学とを結ぶ路線バスが新設され、学生の利便性向上が図られた。



開通前後における所要時間と定期券料金の比較



鹿児島ー川内 高速バス新設

岩崎グループの林田バスは鹿児島ー川内間に南九州自動車道を利用した高速バス路線を新設し、運行を始めた。

国道3号経由で同区間を走る従来路線より約五十分短縮。南九州道が薩摩川内市の隈之城地区まで延びたことから、利便性の高い便を提供することで九州新幹線に対抗する意味もあるという。

鹿児島駅(一部鹿児島中央駅)と薩摩川内市の鹿児島純心女子大を発着点に一日六往復。片道九百円。純心女子大学生にとっては川内駅で乗り換える手間が省ける利点もある。

南日本新聞(H19.4.6)

【声】JRの定期代よりも安く、しかも乗継なしで通学できるので、非常に楽になり、大変助かっています。

(鹿児島純心女子大に通う学生)

宅地開発により人口が増加

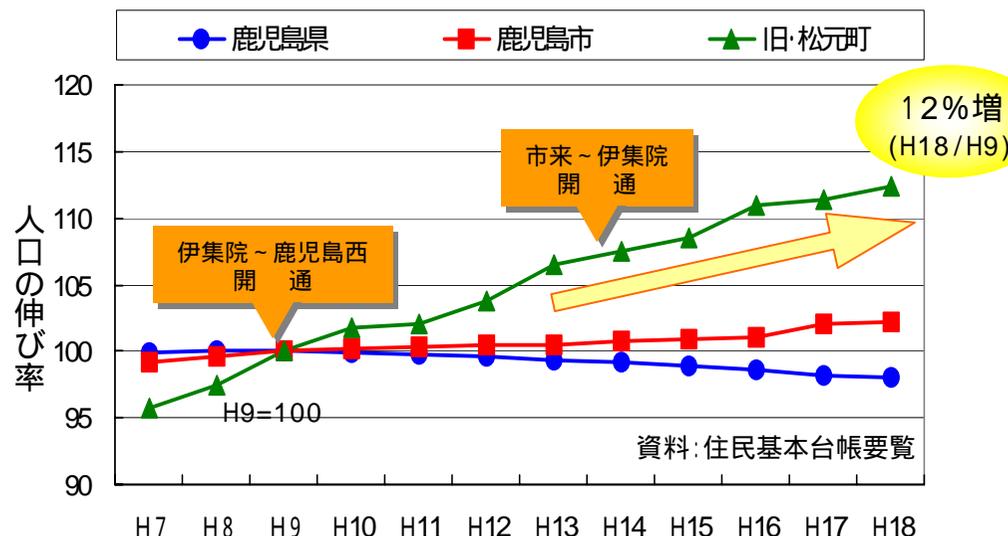
鹿児島市とのアクセスが向上し、IC周辺部では宅地開発などの動きがみられ、人口増加がみられた。



松元IC周辺ですすむ宅地開発



旧・松元町の人口推移 (H9=100)



松陽台ニュータウン

鹿児島県住宅供給公社が整備。計画471戸数に対し、平成18年度末61戸が分譲済。



公示価格 11年連続下落

【住宅地】

鹿児島県内の1平方メートル当りの価格は6万1300円で、昨年より200円下がった。

住宅地で上昇変動率が最も高かったのは鹿児島市唐湊一丁目の1.5%。市町村別では、南九州西回り自動車道の整備が進み、大型団地が計画される松元の0.4%が最高。以下、吉田、伊集院、鹿屋と続く。周辺整備で利便性が増し割安感のある点が評価された。

南日本新聞(H14.3.26)

救急医療活動の支援

薩摩川内市から鹿児島市内の三次医療施設までの搬送時間が短縮され、救急医療活動に役立っている。

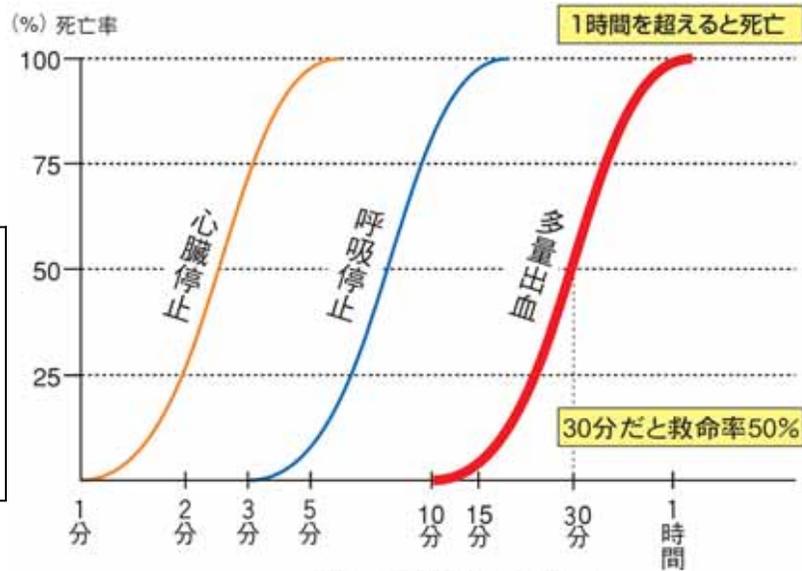
南九州道延伸にともなう救急搬送経路の変化



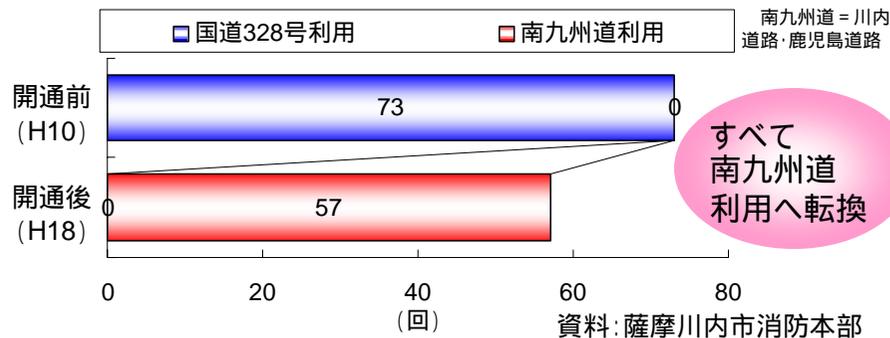
【声】南九州道は、心疾患および脳疾患の患者の迅速な医療機関への搬送に大きな役割を担っています。

(薩摩川内市中央消防署ヒアリング)

治療を受けるまでの時間と死亡率の関係



薩摩川内市から三次医療施設への搬送回数と利用ルート



観光の活性化

南九州各地を回る周遊ルートに鹿児島道路沿道にある観光施設も加わり、沿線観光地の入り込み客数の増加も見られる。

ある旅行会社の南九州周遊ルート

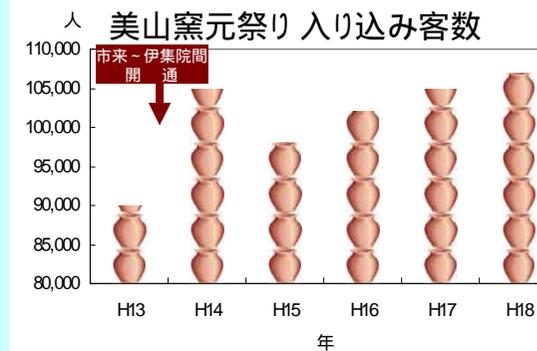


資料: 大手航空会社旅行パンフレットの行程をもとに作成

薩摩焼の里——美山 みやま

薩摩焼は、秀吉の朝鮮出兵(1598年)の際に、朝鮮から連れ帰った陶工たちが当時の薩摩藩藩主・島津義弘の保護の下に始めた焼物をはじめ。平成14年1月に国の伝統的工艺品に指定。現在、美山には多くの個性豊かな窯元が点在し、それぞれが趣向を凝らした作品を制作している。

毎年、11月に「窯元祭り」が開かれ、陶芸体験、手ひねり絵つけコンテスト、特産市などが開かれ、焼き物が通常より安値で購入でき、多くの観光客で賑わう。



資料および写真提供: 日置市

【声】 鹿児島道路ができて来客者数が増えた。今年春の美山ICができる、美山陶芸の里の様子もずいぶん変わってくると思う。
(美山で窯元を開く陶芸家)

【参考】 地元が主体となった鹿児島道路の利活用

日置市では、地域の産業(農業・水産業・観光)を支援することを目的に、美山地区に追加インターを整備している。

美山ICの位置ならびに鹿児島道路のIC間距離



写真提供:日置市



美山ICの概要

- ・日置市の整備により、鹿児島方面からの乗り降りができるランプを追加。(PA脇の市道に接続)
- ・平成20年4月完成予定。
- ・薩摩焼発祥の地「美山」や、日本三大砂丘「吹上浜」などの観光地へのアクセス向上を期待。

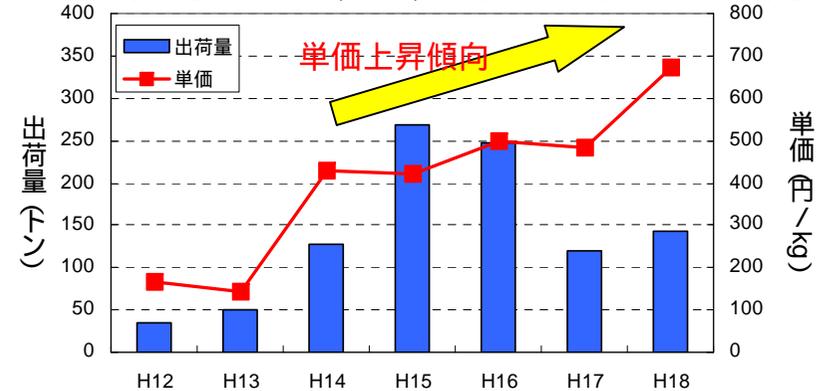
地元水産品の高付加価値化

鹿児島空港への輸送時間短縮が図られたことから、水揚げ当日に東京へ運ぶことが可能となり、価格の安定に役立っている。

鹿児島空港への輸送ルートの変化



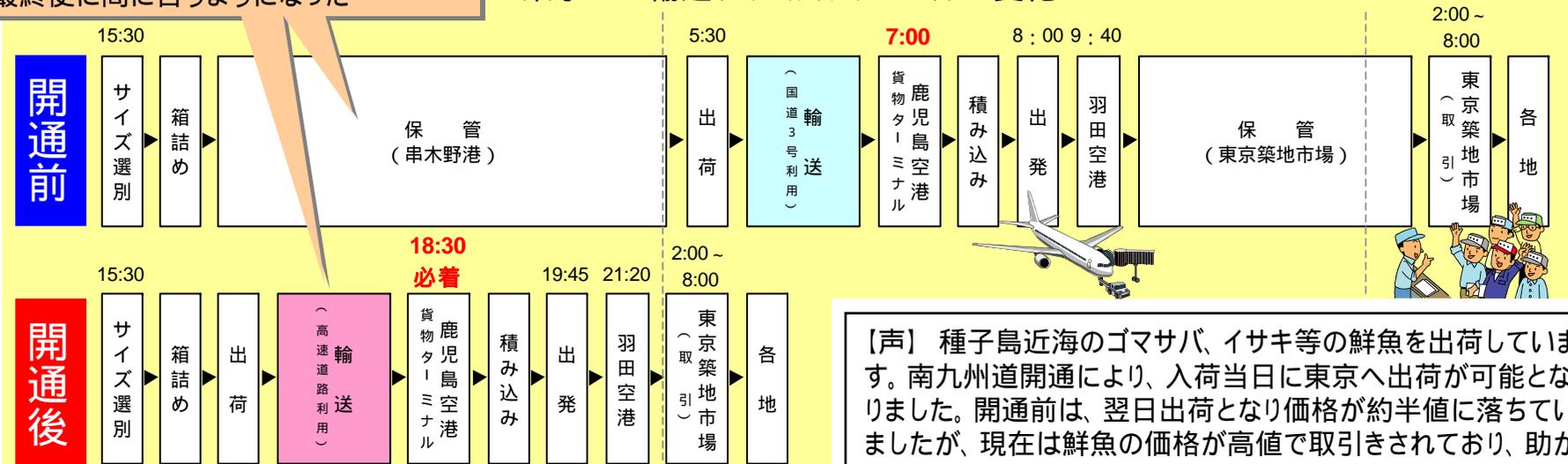
串木野漁港から東京(築地)市場への出荷量・単価の推移



資料:鹿児島県水産物卸売市場年報

鹿児島空港までの所要時間が短縮され、最終便に間に合うようになった

東京への輸送タイムスケジュールの変化



資料:串木野漁業協同組合ヒヤリング

【声】種子島近海のゴマサバ、イサキ等の鮮魚を出荷しています。南九州道開通により、入荷当日に東京へ出荷が可能となりました。開通前は、翌日出荷となり価格が約半値に落ちていましたが、現在は鮮魚の価格が高値で取引されており、助かっています。(串木野市漁業協同組合ヒヤリング)

4. 事業で配慮した事項

文化財保護への取組み

17世紀ごろの薩摩焼初期の窯跡が見つかったため、地元と協力して移設保存を行った。



どびらかま 堂平窯跡

薩摩焼が朝鮮から発祥して間もない17世紀ごろにつくられたと思われる窯跡で、鹿児島市にあった鶴丸城の瓦も製造していたであろうといわれている。

鹿児島道路・市来IC～伊集院IC間建設に伴い出土し、地元行政等との調整の結果、東へ約600メートル先にある公園内に移設した。

現在、地元日置市の有形固定文化財に指定されている。

堂平窯移設に着手

鹿児島県教委は二十一日、日置郡東市来町美山で昨年十月に確認された薩摩焼初期の古窯、堂平(どびら)窯跡の移設作業に着手した。

窯跡は美山陶遊館に近い植木山の公園に現況のまま移し、同町が活用する。石神正明同町教育長は「町にとって非常に貴重なものなので今後に生かしたい。多くの人が見て当時の様子をしのんでくれれば」と話している。

窯跡は十七世紀前半に造られた朝鮮系単傾斜窯で全長三〇・五メートル、幅一・二メートル。文献では同地にあるとされていたものの確認されたのは初めて。

南日本新聞(H11.1.22)

5 . 評価結果及び対応方針 (案)

評価結果

直接便益(時間短縮・経費減少・事故減少)を対象とした現時点の費用便益比は1.8である。

対象区間の開通により、

- ・ 鹿児島市と郊外の大学とを結ぶ「バス路線の新設」
- ・ 沿道の宅地開発による「人口の増加」
- ・ 三次医療施設への「搬送時間短縮」

など様々な効果が発現している。

今後の対応方針(案)

現在、国土交通省において事業中である南九州西回り自動車道の延伸と鹿児島東西道路の整備により、鹿児島道路にかかる交通ネットワークが構築されることから、延伸事業の円滑な進捗が図られるよう協力し、地域との連携・協力を図りながら利用促進を行い、更なる効果が発揮できるよう努めたい。